

IVCと他療法の併用により奏効した2症例



医療法人仁善会 田中クリニック
理事長・院長

田中 善 先生

【略歴】

鳥取大学医学部医学科卒業。医学博士（大阪大学）。大阪大学第一内科（腎臓内科）、大阪厚生年金病院腎臓内科医長を経て、医療法人仁善会田中クリニック理事長・院長に就任（<http://www.tanaka-cl.com>）。がんに対する免疫療法、栄養療法、点滴療法など統合医療を中心に診療を行っている。また医科歯科連携と栄養学を中心とする予防医学を推進する活動を行っている。

日本内科学会認定内科医、日本透析医学会透析専門医、日本腎臓学会腎臓専門医、日本医師会認定産業医、日本医師会認定健康スポーツ医。腸内フローラ移植臨床研究会代表理事、日本先制臨床医学会理事、日本老化制御医学会常任理事、IAOMT-Asia (International Academy of Oral Medicine and Toxicology) 副代表。

症例1 I.O. 51歳 女性

診断: malignant melanoma (悪性黒色腫)

経過: 2001年左側腹部のmelanoma切除。2006年左単径リンパ節郭清。2015年5月右単径リンパ節郭清。6月~8月放射線療法施行。ペグイントロン治療施行。12月腹部腫瘍(melanoma)摘出術施行。

2015年11月27日から高濃度ビタミンC点滴療法(IVC)開始(2015年12月5日VC50g血中濃度:3520.9 μ g/ml、2016年1月5日VC60g血中濃度:5320.4 μ g/ml)。約3か月間は週2回、その後約2年間は週1回、その後月2回約1年前から月1回施行中。2016年6月から水素点滴併用。VD3(Pure):5,000IU/日、コンプリートバイオテック(乳酸菌製剤)1C/日、マルチビタミン・ミネラル、ビタミンC服用中。重炭酸入浴剤Hot Tab使用中。現在、PET-CTなど画像上も再発・転移なく、仕事(医療関係)を続けている。

評価: 原発巣を手術後もたびたび再発をしていたが、高濃度ビタミンC点滴療法を施行することにより、それ以後再発・転移もなく、仕事を普通に続けられている。QOLも向上し仕事を普通に続けられている。

症例2 C.R. 52歳 男性

診断: 盲腸癌

経過: 2020年11月ごろから腹満感、嘔気、嘔吐があり、精査したところ回盲部腫瘍、イレウスと診断。12月に腹腔鏡下結腸右半切除術施行。盲腸癌(Moderately differentiated tubular adenocarcinoma)、リンパ節転移(回腸末端部流域のリンパ節腫大、傍大動脈に多数の結節)と診断。

2021年2月1日から高濃度ビタミンC点滴療法(IVC)開始(11月27日現在VC60gを1~2週に1回)。同時にヨガ、鍼灸、転地療養、薬膳料理、水素吸入、食事療法などを併用して行っている。抗癌剤は職場復帰(教師)に影響があるので拒否した。

腫瘍マーカーの推移(下の欄はCA19-9の数値)

2020 12.09	2021 01.12	2021 04.07	2021 06.14	2021 07.19	2021 08.16	2021 10.11
3762.0	11357.8	2910.0	1258.2	574.7	573.7	411.3

評価: 手術後に抗癌剤をせずに、高濃度ビタミンC点滴療法を主な治療として受け入れた。仕事に復帰するために、意欲的に正常細胞の活性化を行う治療法を取り入れ、それが奏効して仕事への復帰も可能になってきている。おそらく抗癌剤を使用していれば早期の社会復帰は困難であろう。高濃度ビタミンC点滴療法が抗癌剤としての作用とともにQOLを向上させる治療法として有用であることが示唆される。